

# インクルーシブ防災活動でつながる、災害時にも誰一人取り残さない地域づくり

## 西豊田実行委員会×豊田中・西豊田小×静岡市×静岡市社協×イワタニ×明治安田

### 1. 取組概要

地域住民と保健福祉専門職で構成する実行委員会を中核に、多様な関係機関等との連携による福祉と防災が融合するインクルーシブ防災活動を西豊田学区を基盤に継続実施しています。活動テーマは災害時の要配慮者支援に置き、その目標は災害時にも誰一人取り残さない、平常時に支え合える地域づくりです。参加型で実践的な活動として、事前研修、ワークショップ、宿泊型防災訓練、シンポジウムを行い、昨年度は防災かまどベンチづくりや親子防災キャンプを実施しました。

### 取組継続年数

10年目

### 2. 該当するSDGs目標・ターゲット



避難所運営を事前研修で、要配慮者の支援をワークショップで学び、それを宿泊型訓練で実践し、シンポジウムで検証することで災害に強い地域づくりを目指します。

【ターゲット:】11.b 2020年までに、包含、資源効率、気候変動の緩和と適応、災害に対する強靭さ(レジリエンス)を目指す総合的政策及び計画を導入・実施した都市及び人間居住地の件数を大幅に増加させ、仙台防災枠組2015-2030に沿って、あらゆるレベルでの総合的な災害リスク管理の策定と実施を行う。

### その他関連するSDGs目標



### 3. 目標に対する達成状況、実績

誰一人取り残さないをスローガンとするSDGsにおいて、第3回国連防災世界会議で「インクルーシブ防災」が提唱されました。災害時でも自助にハンディのある高齢者や障がい者など要配慮者が支援の手からこぼれないよう、平常時から支え合えるまちづくりに取り組んでいます。本活動は、日本地域福祉学会「第19回地域福祉優秀実践賞」受賞など評価されています。

### 4. 取組が開始されたきっかけ・課題意識

要配慮者支援は地域防災の喫緊の課題であるにも関わらず具体的な取り組みが進んでいません。担い手不足・高齢化や住民同士の関係性希薄化などで地域防災活動も停滞している現実があります。静岡市障害者協会が西豊田学区で実施した宿泊型防災訓練に参加・協力した地域住民や保健福祉専門職がこれを「イベントで終わらてはもったいない！」からスタートしました。

## 5.取組イメージ

2016年から活動を開始し、バージョンアップしながら継続・発展させています。特に地域防災訓練が中止(又は規模縮小)の中、コロナ禍だからこそできること・すべきことがあると活動を継続しました。昨年度は基盤活動に加え、学区指定避難所の小・中学校に「防災かまどベンチ」を多世代参加で制作し、冬の親子避難所キャンプを実施しました。



福祉防災  
セミナー  
(6月)



宿泊型防災訓練 (12月)

親子避難所  
キャンプ  
(2月)



防災ワー  
クショップ  
(10月)



支援シンポジウム (2月)



かまどベン  
チづくり  
(7-9月)

## 6.応募した取組の今後の計画・展開

活動10年目に入り、二つの大きな課題に対して具体的な取り組みを進めます。課題①は静岡市で最も人口の多い学区内での活動の浸透。課題②は先駆的・実践的と外部からも評価されている活動の他地域への拡大。福祉防災を切り口とする住民主体の地域支え合い体制づくりモデルとしてこの活動を波及させていきます。その手段として、令和7年度真如苑防災公募助成に採択され、西豊田モデルの活動手引きとDVDを作成します。地域で取り組むためのわかりやす進め方ガイドとDVD映像を活用して課題に取り組めます。

## 7.取組のポイント(挑戦性、新規性等)

1. 実体験による新たな地域防災活動  
硬直化している地域防災活動に対し、「①楽しく、②主体的に、③共に」で取り組む新たなインクルーシブ防災活動のモデルを確立。
2. 多世代交流による共助力の向上  
どの世代にも関係し、関心が高い防災と要配慮者への災害時の実践的支援活動を融合させ、地域の共助力や福祉力の向上に貢献。
3. 多様な団体等と連携した活動実践  
住民地縁組織だけでなく、様々な地域の団体等の参加・協力を受けてより実践的で創造的な福祉防災でつながる新たな活動を展開。
4. 住民主体の支え合える地域づくり  
行政主体のトップダウンではなく、住民主体で平常時に支え合える地域づくりを目指すボトムアップ型の地域共生社会づくりへの挑戦